

特集

今年の県政はいつより年でした

この一年皆さんにとつては どんな年でしたか。「元気で明るい熊本づくり」に向けて 県ではさまざまな取り組みを進めました。



1月

農業の魅力・個性づくりの推進
県育成イチゴの新品種を公表
し、九月にはその愛称が「ひのしずく」に決まりました。温州みかん・デコポンやナスなどの県育成のオリジナル品種の産地化も進みました。



新品種イチゴ「ひのしずく」

2月

国際交流の輪広がる
韓国の忠清南道観光広報団をはじめ、米国モンタナ州知事(四月)、中国広西壮族自治区友好交流訪問団(五月)などが相次いで熊本を訪問されました。また、中国・ASEAN博覧会(十一月)の開幕式に知事を団長とする視察団が出席し、県の観光地や産物を紹介するなど、国際交流の輪が広がりました。

3月

新たな指針・計画などの策定
県政運営の基本の一つ「パートナーシップ」のさらなる推進に向けた「地域福祉支援計画」「水産業振興基本構想」「人権教育・啓発基本計画」を新たに策定しました。

4月

ハンセン病問題への取り組み
昨年十一月、国立療養所菊池患楓園に入所の方々が正当な理由なく宿泊を拒否される事態が発生しました。県では当該ホテルに行政処分を科すとともに、差別や偏見をなくすため、講演会や資料展などハンセン病に対する正しい理解を深める取り組みを進めています。

5月

九州新幹線をはじめとする交通体系の整備
県民の長年の夢であった九州新幹線鹿児島ルート「新八代～鹿児島中央」間と肥薩おれんじ鉄道が同時開業。九州新幹線の全線開業に向け、「新幹線を活かしたくまもとづくり」を各地で進め、十二月には、新幹線新駅周辺整備推進会議の中間報告を実施。また、天草エアライン「熊本～松山」便も運航を開始、十月にしました。



九州新幹線「つばめ」

6月

交通ネットワークの構築
熊本市の近見高架橋や、国道57号熊本東バイパスの六車線化された一部区間の供用が開始され、渋滞緩和や都市圏交通の円滑化に大きな役割を果たしています。また、四月には国道267号の「久七峠バイパス」も開通し、地域の活性化が期待されています。



近見高架橋

7月

防災対策の充実
県防災センターの二十四時間勤務体制などによる速やかな初動体制の確立や、防災情報伝達システムの改善など防災体制の整備を進めています。

湖谷県政
二期目スタート
「元気で明るい熊本づくり」を目指す湖谷県政二期目がスタート。六つの政策や行政改革などに取り組みとともに、知事が直接県民と意見を交換する「くまもと元気づくりトーク」を八月から三回実施したほか、九州地方知事会議を五年ぶりに熊本で開催(五月)しました。



くまもと元気づくりトーク

8月

上津浦ダム竣工
洪水の防止や農業・水道用水の確保のため、天草郡有明町に平成元年から建設を進めてきた上津浦ダムが完成しました。

9月

地域再生計画の認定
「熊本県半導体関連産業地域再生計画」など県内で七つの計画が国の支援を受けられる地域再生計画として認定されました。地域の知恵と工夫による、新たな活性化が期待されます。

10月

「こども総合療育センター」再編整備進む
再編整備を進めている障害児療育の拠点施設「こども総合療育センター」の通園棟、入所棟などが完成、地域における療育の充実も図っています。全体完成は来年度の予定です。



「こども総合療育センター」(松橋町)の中庭